

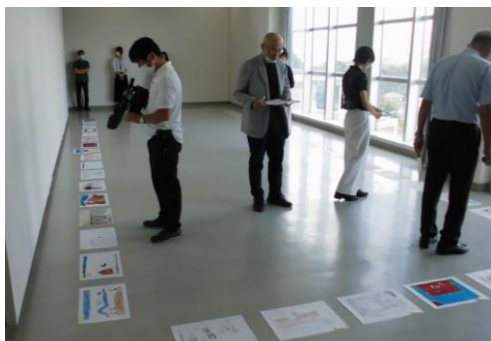
「Hiroshima Young Peace Builders」の審査会に参加しました。

2022年9月4日(日)9:30-11:30 広島市安佐南区の広島市立大学を訪ねました。Hiroshima Young Peace Buildersは、この大学の学生団体で、この日は小学生が応募した絵の審査会が行われました。代表の佐藤さんが被爆者から聞いた被服支廠の話を題材に子供向けにシナリオを作成し、それを朗読し小学生が印象に残った場面を絵にしたものです。いくつかの賞を選ぶので来てほしいと言われ行ったところ、メディアが取材に来られていたのと朗読ビデオの完成度の高さに驚きました。朗読は3名で行われていましたが、プロの演劇家の指導を受けた同大学演劇部とプロのアナウンサーが臨場感たっぷりの朗読をさせていました。下記YouTubeで視聴可能です。ぜひご覧ください。

<https://hiroshimaypb.wixsite.com/hiroshima-young-peace>

この朗読ビデオを鑑賞した後で、小学生の絵の審査を行いました。40枚の作品から「平和への想いが伝わる絵」「戦争の悲惨さが伝わる絵」などを選びました。5名の審査員が候補に選んだ絵を最後に全員で評価して決めました。

この団体の活動はこれで終わりではなく、これからプロの紙芝居作家に依頼して、子どもたちの描いた絵を参考に紙芝居を作成してもらい、12月に「絵おと芝居」の上映会を行うそうです。どのようなものになるのか、とても楽しみです。



<Hiroshima Young Peace Builders>

- ・昨年度支援した「一般社団法人 まち物語制作委員会」が佐伯区民文化センターで開催したヒロシマ絵おと芝居の上映会を手伝ったことをきっかけに発足した。広島で平和について学ぶため広島市立大学を選び、平和のためのボランティア活動を行っている女性5人の団体。
- ・上述したように、プロの演劇家や同大学演劇部、アナウンサー、公民館、まち物語制作委員会、それに同大学の学長や芸術学部の先生方等、多くの方たちの支援を受けて活動を進めている。
- ・7/20の中国新聞にも朗読の件が取り上げられていた(次ページ参照)。

(井上)

中国 2022年(令和4年)7月20日(水曜日) ◇東地域(22)

被服支廠題材に物語

ウサギ主人公 子どもに訴え

広島市立大生23日から朗読会



森井さん(手前)から朗読の助言を受ける佐藤さん(奥左)たち

1945年夏のある日、ウサギのシロとクロはかごに入れられ、おうちの外に連れ出されます。そして、軍服用の毛皮を取るため、軍の命令により被服支廠の周辺の家々で飼育されていたウサギが原爆に遭う物語。「軍都広島」の歴史と原爆の悲惨さを伝える。

国際学部3年の佐藤優さん(21)が昨年、被服支廠の近くで育った被爆者の切明千枝子さん(92)に安佐南区の証言会に参加したことが創作のきっかけ。動物が主人公の物語なら子どもの心に届くはず、と思い立ち、切明さんから計8時間聞き取って書き上げた。仮装大会や運動会で廠内が沸いた話も盛り込んだ。「多様なエピソードから広島を学んでほしい」。大学の友人たち4人に呼びかけ、グループを結成した。

7月上旬、「劇団テアトル広島」の森井忠さん(61)に安芸区に指導を仰ぎ、臨場感が出る声の抑揚のつけ方を練習した。3年久米佳奈恵さん(20)は「倉庫群とウサギが日常を一時で失う物語を通して、平和が当たり前でないことを感じてほしい」と意気込む。

朗読会は23日午後1時半と3時半の2回、仁保公民館(南区)で開催。24、30日も坂町民センター(坂町)など3カ所である。新型コロナウイルスの感染状況によっては中止する。

31日には動画投稿サイト「ユーチューブ」でも公開する。小学生を対象に8月6、31日に絵を募集し、紙芝居作家いぐまさ鉄平さんが紙芝居に仕上げる。問い合わせはhioshimaypb@gmail.com

広島市立大(広島市安佐南区)の学生グループ「ヒロシマヤング・ピースビルダーズ」が、市内最大級の被爆建物「旧陸軍被服支廠」(南区)を題材に子ども向けの物語を創作し、朗読する催しを23日から市内の公民館などで開く。参加した小学生を対象に印象に残る場面を描いた絵を募り、紙芝居にする企画も進める。(湯浅梨奈)